
マイペースな祭ちゃん

N a n k a k u r o i k e m o n o

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

マイペースな祭ちゃん

【Nコード】

N1209K

【作者名】

N a n k a k u r o i k e m o n o

【あらすじ】

麻帆良在住の南神納 みなみかのう まつり 祭ちゃん。

ほわほわしていてマイペースな彼女が学園の人達と共に送りする、何とも言えない不思議なお話です。

その1〜祭ちゃんとガンドル先生（前書き）

激しいアクション、格好いいシリアスな要素は恐らくありません。
それでも良いと言って頂ける皆様は、煎餅を加えながらお読み下さい。

その1 祭ちゃんとガンドル先生

・麻帆良学園中等部 食堂

「あうーお腹が空きましたあ」

彼女の名前は南神納^{みなみかのう まつり} 祭

ほわほわわ々な雰囲気の年齢不詳の美少女で、このお話のヒロインです。

「はあ、全く……。ほら、冷めない内に食べなさい」

溜息をつきながら、彼女に器を渡すのは・ガンドルフィーニ先生です。

「わーい、オムライスだー」

ほむほむと嬉しそうに頬張る様は、見ていて非常に和みます。陰で堅物と呼ばれてる、我らのアイドル「ガンちゃん」も顔に微笑を浮かべて見えています。

「それで、どうしてあんな所で倒れていたんだい？」

私の目の前で美味しそうにオムライスを食べている少女の名前は「南神納 祭」。

麻帆良学園在住、裏の仕事仲間でありながら魔法使いでは無いという訳の解らない娘だ。

「もむもむ・・・お腹が空きすぎて立てなくなっただんだよ」

「君の空腹になると地面で丸くなる癖、一刻も早く直すべきだと思うんだが？」

「う~~~~っ、体が言う事きなくなるんだよ」

「・・・・・・はあ」

どこまでもマイペースな彼女に呆れてしまう。

この不思議な少女と出会ったのはちょうど一年前の春だった・・・。

その2 ガンドル先生、大いに悩め

一年前 春 世界樹周辺

夜になり、いつものように集まった私達の目の前に立つ妖ka・・・
ゴホンッ、
学園長が一人の少女を連れてきた。

「新しく皆と一緒に警備を担当する事になった南神納祭君じゃ」
みなみかのう まつり

「こんばんわ祭と言います。皆さんよろしくお願いしまっすっ」

ほわほわと言う擬音が聞こえてきそうな笑みを浮かべている姿を見た当初は、果たして
役に立つのだろうか？と疑問を抱いてしまった私は悪くなかったと思う。

しかし、彼女の实力は、本物だった。その日彼女と二人で侵入者を撃退した時にそれを実感した。

「鬼さーん、こっちですよー」

ニコニコ笑い、鬼の攻撃を軽やかに避けながら鬼の注意を引きつけ、私に鬼を退治させ。

「侵入者さんゲットですー」

術を使い巧妙に一本の木と同化し隠れていた術者を、「ここから変な匂いがしますよ？」と言って

見つけたし、捕まえて見せたのだ。間延びした言葉づかいや天然の入った行動に目をつぶれば、

間違いなく彼女の実力は一流であるのだが・・・、

「あひやひやひやひやひやつつ。や、やめてくれあひやあああつ！？」

「ほらほら」早く侵入した目的を言わないと・・・」

・・・こしょこしょこしょり

「お腹が擦れすぎて大変な事になりますよ・・・？」

「や、やめれくりやあつ！？言うからもう止めてえええりやああああつ！！！」

侵入者の全身をくすぐりながら尋問している姿を見ると、マギステル・マギを目指す

私としては、正義の在り方とは何だったかと思わず考えてしまうのであった・・・。

その3祭ちゃんは学園の教師ですよ・・・一応？（前書き）

第3話目に突入します。今回は祭ちゃん視点でのストーリーです。
祭ちゃんのある午後の出来事です。

そのく祭ちゃんは学園の教師ですよ・・・一応？

正午 麻帆良学園高等部周辺

こんにちは、祭ですつ。私は今学園内の見回りをしています。
昼の警備もちゃんと真面目にやっているんですよ？

仕事の合間にキティちゃんと遊んだり（キティ言っなっ！！byエ
ヴァ）

ネコさん達とお昼寝したりするけど真面目にやってるんだよ？ホン
トだよ？

注意（人はそれを言い訳と言います）

あ、何か向こうで体の大きな男の子二人が言い争ってるみたい？
周りも二人を煽ってるし、止めないと危ないよねっ

・・・そのふたりっっつ、喧嘩は駄目だぞっっつっ！！

「ああん？なんだ手前はよお？」学生A

「ガキは引っ込んでな、俺達は今大事な話の途中なんだぜえ？」学
生B

「おうよ、実戦派柔術と麻帆良流本格空手のどちらが強えかをよお」
学生A

「拳で語り合って決めようとしてるんだぜえ？」学生B

「む、訳の解らない事言わないでよっつ。
それに私はガキじゃないよっつ。先生だよっつ。」

注意（身長152？ + 童顔の為、全く教師に見えません）

「H a h a h a ! ! ジョークがきついぜお嬢ちゃんっ」学生A

「そんな貧相なB o d yで大人ぶっても説得力は無いぜえ？」学生B

「うっっっつ、貧相じゃないぞっっっつ！！ちゃんと出る所出て
るんだぞっっっつ！！」

「H a h a a ! ! 俺達に言わせりゃあ、Dカップ以下なんざ子供
同ズえあべしっつっ！？」「バカ二人

女の子に対して失礼な二人にはO・S・I・O・K・Iをする事に
決めます（怒）

そのく祭ちゃんは学園の教師ですよ・・・一応？（後書き）

次回、学生A＆Bが祭ちゃんにフルボッコされます。

その4〜NYA発動！！祭ちゃんに“小さい”発言は禁句デス

前回のお話

喧嘩？をしていた学生二人を仲裁しようとした祭ちゃんですが、結果は見事に空振り三振でした。

しかも、子供＋ペツタン娘扱いまでされてしまいます。（多少の思いこみもあり）

これに怒った祭ちゃんは、バカ二人に対しO・S・I・O・K・I（肉体言語で）をする事にしたのでした。

作者による状況説明

祭ちゃんが何処からともなく取り出したるは、昨日駄菓子屋で購入のプラバット！！

しかし、彼女が持つ事によりプラバットはただの玩具では無くなるのだっ！！！！

彼女は魔法使いではなく、NYA（何だかよく分からんオーラ）使いである。

今この瞬間、彼女の放つNYAによっておもちゃのバットは変化したのであった……。

プラバット NTS（何か叩かれると凄く痛い）バットに変わりました。

「女の敵、女の敵っ、女の敵いいっ！！」祭ちゃん

・バシッ、バシッ、バシンッ！！（学生A＆Bをしばいていきます）

「「アウチッ、オウチッッ！カウチッッ！！！」学生A＆B

「つるぺたでもっ、洗濯板でも無いもんっっ！！」祭ちゃん

・ビシッ、バシッ、ズベシッ！！（さらにしばいています）

「これでもっ、いろいろとっ、努力してるんだぞおおっ！！」祭ちゃん

・ズドンッ、ズドドンッ、キュイインッ！！（トドメの8連コンボがHIT）

「「ちょ、ま、待つて・・・、いえあああああッッッ！？」不幸なお二人

哀れ、男子学生AとBは星になってしまいました。学園内の皆さん、

祭ちゃんの体型（特に胸）については触れないようにしましょう。

え、おもちゃで人がボロボロになるのかつて？

その眼鏡をかけた女子中学生さん、この学園内ではよくある事です。

深く気にしないようにしましょうね。あまり気にし過ぎても疲れるだけですょ？

あとがき

祭ちゃんのスタイルは決して悪くはありませんが、良くもありません。

トランジスタグラマーでも無いです。ですので、大きいのが好きな人からは

女の子扱いしてもらえせん。

今日も何処かで祭ちゃんのNTSバットが唸ります。

祭ちゃんの紹介メモ その1

名前

南神納 祭 (みなみかのう まつり) 性別 女

年齢 本人が覚えていないため不明。パット見15、6歳

身長 152? スタイル k yの小 ちゃん体型

性格 マイペースで明るいです。(周囲の総意見)

一年前(原作開始の)に麻帆良学園にやって来た。魔法や気を使わない代わりに、NYA(何だかよく分らんオーラ)を駆使して戦う。

戦闘時は主にサポートや攪乱担当。

体が小さく、子供扱いされるのを結構気にしている。色々と大きくなるうと

毎日頑張っているが、肉体年齢が既に固定された状態の為、成長は望めない。

(本人はその事を忘れています)

自分の半径50m以内に対し不思議空間を展開してしまうNYAだが、

これは祭ちゃんのエネルギーを割と消費するため、彼女はよくお腹を空かせて

ガス欠をおこしてしまう。(その度に誰かが回収し、食堂に直行で

す)

おまけ 祭ちゃんの友達紹介 その1

ガンドルフイーニ・・・通称ガンちゃん。仕事仲間&ごはんを奢ってくれる友人1号

刀子先生・・・通称トウちゃん。仕事仲間&飲み仲間(よく愚痴を聞かされます)

式集院先生・・・通称ミツルちゃん。仕事仲間&ごはんを奢ってくれる友人2号

タカミチ・・・通称たっちゃん。仕事仲間&古い友人にして修行仲間
近右衛門・・・通称ぬらりん。雇い主であり、学園内では一番付き合いの長い友人

エヴァ・・・通称キティちゃん。仕事仲間&友人+祭ちゃん専用抱き枕w

彼女の友達はまだまだたくさんいますが、数人ずつにまとめて紹介していきます。

そろそろネギ君と出会います。自称紳士のネギ君を見て彼女は何を思っているのでしょうか？

次回に続きます。

その5 天然娘と幸運助平（ラッキースケベ） （前書き）

祭ちゃんはついにネギ君と出会います。ちなみに茶々丸襲撃イベントです。

ゆるやかにゆるやかに、原作と話が変わって行きます・・・。

祭ちゃんは可愛いもの好きです。決してショタコンではありませんせん。

今回の話はその事を踏まえた上で読み下さい。 m (_ _) m

その5 天然娘と幸運助平（ラッキースケベ）

「キュ~~~~~」

こんにちは、祭です。現在、私はケガ人の介抱をしています。

私の膝を枕にして目を回して気絶しているのはネギ君という男の子。

鉄砲の音を聞いて気絶した子狸のような可愛い声を出しながら
クルクルと目を回しているんだけど、・・・何か見ていて癒される
なあ

昼間の見回り中、ネコさん達と昼寝をしに広場に来てみると
茶々丸とネギ君＆女の子がケンカをしていたんだ。

（ガチンコバトルです、ケンカではありません）

それで、ネギ君が茶々丸に魔法を放ったから急いで茶々丸を
庇いに走りだしたんだけど、何とネギ君が途中で自分に向けて
引き戻したんだよビックリ！！（魔法の矢を）。

結果、自分の放った攻撃魔法をくらったネギ君は見事KO。
仕方が無いから傍にいたツインテールの女の子には先に帰って
もらう事にして、私が介抱をするのであります。（ブイッ）

あ・・・、でも・・・何だか私も眠くなってきたかも・・・。
今日はまだ昼寝をしていなかったし・・・、ちよつとだけ眠ろ・・・。
。

・・・クウウ（祭ちゃんは夢の世界に旅立ちました）

あれ、此処は・・・？それに僕はさっき茶々丸さんに魔法の矢を放つて、

それを途中で無理矢理自分に引き戻して・・・、それが「あ、気がついたあ？」

・・・え？だ、だれですか！？

・・・それに何だか頭が柔らかい枕に包まれているような・・・？

視線を上に向けると、どこまでもほわわんとしたお姉さんが僕の事を優しい瞳で

見つめていました・・・。あれ、これって膝枕ですかっつつつつ！？

あ、ネギ君が目を覚ましたみたい。（私もさっきまで寝てたけどね）
何だか周りをきよるきよる見ている様子が可愛いなあ
・・・よし、早速声をかけてみようっ！！

あ、気がついたあ？

「え？だ、だれですか！？」

あ、私はこの学園の警備員をやってる祭ちゃんだよっ

「は、はあ・・・どうも。・・・あれ、これって膝枕ですかっつつつつ！？」

・その通りっつ。祭ちゃん先生特製膝枕だよっっつ

「あ、あわわわっつっ！！す、すみませっっんっつっ！！！」

・あ、何か慌てて逃げて行っちゃった……。もうちよつとお話したかったんどけどなあ……。まあいつか。また明日会えるだろうしね

その日、もの凄いスピードで学園内を走り抜ける少年を多くの人が見かけたようです。ちなみにネギ君は新田先生にこっそり絞られていました。

（罪状は学園内爆走行為）

今回のちよこつと補足

祭ちゃんは裏の警備員でもあるので、学園長からネギ君の事は聞いて知っています。また、普段から彼の暴走行為（主に武装解除）は見かけているので、ネギ君の性格は大体把握しているのです。

ちなみに祭ちゃんは彼の事を「可愛い顔をした変態と言う名の紳士」と

認識していますw（あながち間違いではありませんが）

茶々丸ともエヴァ経由で知り合いになっていますが、友達と言うよりは
ネコと同じ扱いをされています。（祭ちゃんは全く気にしていません）

その5 天然娘と幸運助平（ラッキースケベ）（後書き）

ネギ君は恥ずかしさのあまり逃げてしまいました。
祭ちゃんは自分のした行為（膝枕）の所為だとは
全く気づいていません。

天然というのは時として恐ろしいのです……。 （汗）

さて、次回は誰との話になるのでしょうか？

その6〜キティちゃんだって女の子なんですっ!!。by祭(前書き)

今回はいつもより長めになっています。少々読みにくいかもしれませんが、

興味のある方は読んでいって下さい。お願いします。m(´`)(´`)

m

その6、キティちゃんだつて女の子なんですっ！！。by 祭

麻帆良大学工学部 某研究室内

暗い研究室の中、黙々と作業を続ける男が一人。彼の名前は葉加瀬はかせ舵郎だろう

と言、麻帆良学園でも有数のマッドサイエンティストであり、変人であり、
はかせ さとみ
 葉加瀬聡美の兄である。

（彼の容姿は、若き日のダ・ヴィンチ博士をイメージして頂ければOKです）。

[illegible]

彼は、最近出沒するようになった下着ドロ（犯人はエロオコジョ）
に対処すべく
変質者撃退グッズの作成を依頼されていた。当初は簡単な設置式の
警報機等を
作ろうとしていたのだが、いつの間にかテンションが揚がってしま
い……。

…痴漢撃退ロボが完成してしまいました。（何故っ！？）

「ふむ、こいつの名前は……そう、ゲツちゃんにしようっ!!
待っているがいいまだ見ぬ下着ドロよっ……ククツ……クハ
ハハハッ!!!」

一方、場所は変わり麻帆良学園都市郊外

こんにちは、祭です。キティちゃんが風邪をひいてしまったと言うので

見舞いに行く途中、ネギ君と会いました。

・ふむふむ、果たし状かぁ・・・クリーンファイトって感じだね？
何か男の子らしくてカッコ良いんじゃないかな？（なでなで）

「・・・えへへ、有り難うございます（〃ー〃）ゞ」

・けど、今日は駄目だからね？キティちゃんは風邪引いてるみたいだから。

「キティちゃん？」

・ああ、エヴァちゃんの事ね。私とかはそう呼んでるんだ
・・・何故か怒られるけど。

「あははは・・・間違っても呼ばないようにします・・・」

・うん、そうした方が良いかも？顔を真っ赤にして暴れかねないからね

「・・・（それでも呼び方を変えないマツリさんって一体・・・）」

・ほら着いたよ。ここがキティちゃんのお家だよっつ。

「へえゝ。意外と素敵な家に住んでるんですね・・・。てっきり、

墓とかに住んでいるのかと思っていました……。」

「ふふふっ ネギ君、それは偏見と言うやつだよ？そして、中を見ると

もつと驚くぞっ

「やつほっつ 茶々丸 キティちゃんのお見舞いに来たよっ

「こんにちは、祭先生にネギ先生。……ネギ先生は何をそんなに驚かれているのでしょうか？」

「うん……。たぶん、キティちゃんの外面的なイメージ（吸血鬼としての）と

この少女趣味全開な部屋のギャップに対してかなあ？・あ、これお見舞いの

手作りゼリーね。冷やして後で食べてね

「有り難うございます」

「……真祖の吸血鬼って一体……。悪の魔法使って一体……」

「ほら、ネギ君いつまでも驚いてないで。お見舞いに来たんだから挨拶にいかないよ。」

「はっ！！そうでした、今日はエヴァンジェリンさんに果たし状を……はうっ」

・そうじゃなくて、お・見・舞・い・だってばー!!! (ピピコンッ)

とりあえず、パニックを起こしているネギ君をT・ハンマーで落착かせました。

(T・ハンマー・・・通称：突っ込みハンマー。ただのピコハンです。)

おまけ

夕闇の中、その小動物は荷物を背負って走っていた。

「へへへ・・・今日はなかなか良い下着が手に入ったぜ」

彼の生物は名をアルベール・カモミールと言い、猫の妖精ケット・シーに並ぶ
二大妖精 - オコジョ妖精でありながら下着ドロ二千枚の罪で国外
(英国) から

逃亡中の変態野郎である。

「につしつし・・・、今晚もぬくぬくタイム全開でさあ・・・」

「待ちたまえそこの変質者君」

「だ、誰でいつ!!・・・えゝあ!？」

突如背後に現れたのは・・・、マッド臭のする研究者らしき男とM・
I・B風の

エージェントらしき格好をした（黒いスーツ＆サングラス）小柄な少女。ちなみに

少女は「変態下等生物発見・・・これより殲滅シマス」とか言っている・・・。

「や、やべえよ・・・こいつぁ（汗）」（ダダダッ）

オコジヨは逃げ出したっ！！

「はははっ！！何処に逃げようと言っただね？」

「ひいいいッッッ！！！！」

しかしすぐに追いつかれたっ！！

「さぁ・・・裁きを受けたまえ。ゲッちゃん、Ready Go！！」

「イエス、マスター」

「いやあああああ！？助けて兄貴iiiiiiii！！！！」

「痴漢撃退ビーム・・・発射」（カチッ、シュゴーツ！！！！）

「ギヤアアアアアアアアッッッ」

「ククククッ・・・科学の発展に犠牲は付き物なのだよ・・・クハハハッ」

哀れな子羊の悲鳴と、不気味な男の笑い声は闇の中へと消えていっ

た。

その6〜キティちゃんだって女の子なんですっ!!。by祭(後書き)

新たにオリキャラ登場。マッドな博士に助手兼ロボのゲツちゃんです。

博士のイメージはダ・ジープ博士+ムカで、ゲツちゃんは某ゲームの脇役ロボです。博士は兎も角、ゲツちゃんの元ネタが分かる方は果たしているのでしょうか?・・・少し不安です。

そのフゝクウネルと遊ぼう (前書き)

口りな紳士クウネルさんの登場です。

そのフクウネルと遊ぼう

午後 エヴァンジェリン邸 リビング

「まったく……。あのガキンチョめ。人のプライバシーを覗き追つて……。」（パクパク）

ふむ。ネギ君は魔法を使ってそんな事をしたんだ……。もぐもぐ。うん、美味しい

現在、キティちゃんと一緒に冷やしておいたアップルゼリーを食べています。

あの後、ネギ君から魔法を使って、夢の中身を覗かれたみたい。

ネギ君、いくら好奇心に駆られたからといって勝手に女の子の心の中を

覗くなんて……。やっぱり君は紳士は紳士でも、変態という名の紳士だよ……。

今回の事件の犯行現場（寝室）に私がいなかったのは、ゼリーを盛る器をどれにするかで悩んでいたからなんだけど……。

ふむふむ……。「好奇心ぬこを殺す」とはこの事なんだね？ 納得×2

「祭先生、ぬこでは無くネコだと思つのですが？」

「・・・仮にも教師(?)であるお前が諺を間違えてどうする。」

・はうあっ!!・・・がつくり。

夕方 図書館島 地下最深部

キティちゃんのお見舞いを済ませた後、いったん自宅に戻って荷物等の準備を

してからやって来ました地底図書室 ちょうど明日がお休みなので、友達の家に遊びに来てます。

・やつほゝ番竜さん、クウネルに会いに来たよゝ

「グルル・・・（お、また遊びに来たのか嬢ちゃん？）」

・うん、ちょっとお邪魔するね

「ゴルツ・・・（ああ、主も喜ぶと思うぜ）」

門番をしている竜さんに挨拶をした後、扉をくぐって地下に降りる
事しばし・・・

「ふふ、祭さん。よくいらっしやいました」

・えへへ・・・また遊びに来たよ

私を迎えてくれたローブ姿の優男さんの名前は通称クウネル・サン

ダース（？）

図書館島の謎の司書長なんだって。エヴァちゃんの呼び方“キティちゃん”を

教えてくれたとっても良い人なんだよ？

「成る程・・・キティはネギ君の挑戦を受ける事にしたんですね？」

「うん、「ククク・・・せいぜい揉んでやるよ」って言ってた。

・・・何処を揉むのかな？

「・・・そう言う意味ではないと思うのですが？」

「・・・？　まあ、ぬらりん（学園長）もネギ君が今後成長するためにも

キティちゃんと戦うのは良い事だって言ってたし、私としては
ふたりの対決は結構楽しみかな？

「ふふっ、そうですね。・・・ところでホットケーキを焼いたんですが食べますか？」

「あ、食べる食べるっ　バターとシロップたっぷりですよろしくねっ

「ふふふっ、分かってますよ・・・。（本当に純粋な方ですね・・・）」

クウネルの作るお菓子は美味しいから、いつも遊びに来るのが楽しみなんだよね

だけど、なんでいつもいろんな服を着せたがるのかな？どの服も可

愛らしいから

別に嫌じゃないんだけど・・・。

その7 クウネルと遊ぼう (後書き)

祭ちゃんとクウネルとお話でした。天然娘とロリ紳士の組み合わせは、突っ込み役がないので下手をすれば“落ちのない地獄”が完成します。

その8とある転生者の溜息（前書き）

今回は番外編、このお話のもう一人の主人公・ある転生者君のお話です。

その8とある転生者の溜息

やあ、どうも。俺の名前は八城光太郎^{やしろう こうたろう}、俗に言う転生者^{てんせいしや}って奴さ。ここ“ネギま”の世界に生を受けた当初は、自分の容姿は美形でもなければチートでもないの、のんびり二度目の人生と麻帆良学園生活を満喫しようと思っていたんだ・・・思っていたんだけどさ・・・。

どうやらこの世界（作品）の神（作者）は俺をこの世界に産み落とす際に特殊スキル - “巻き込まれ体質”と“無類のタフネス”の二つを付与してくれたらしい・・・微妙にうれしくないよホントに。この能力のおかげで、生まれてから現在に至るまで・・・色々なトラブルに巻き込まれましたよ。（涙）

「ぐははははっ！！息子よ修行じゃいつ！！」

熱血修行バカな親父につき合わされた幼年＋少年時代。
（お陰で無駄に強くなってしまった・・・。）

「光太郎っ！！今日こそ私と勝負するアルっ！！」

バカイエローに追いかけられる毎日。

「八城光太郎っ、覚悟！！」

その他有象無象の格闘バカ達からの襲撃を毎回撃退している内に
“麻帆良の喧嘩番長”などと言う有り難くない称号をゲット。(汗)

・・・あれ、何かバトルフラグばかり立ててない？

まあ兎に角、今年の春で17歳・高校二年になり原作がついに開始
したのだが、
微妙に原作と違う部分が出てきているんだよ。気づいた点を挙げて
みると・・・

？魔法先生の中でも随一の堅物キャラだったガンドル先生が苦笑し
ながら

女の子にオムライスを奢っていた。(って言うかその娘誰よ！？)

？その女の娘が何と警備の先生だった！！祭ちゃんと言うらしく、
先日喧嘩をしていた男子生徒二人をプラバットでしばいてた。

(・・・原作にこんなバグ娘いたっけか？)

？茶々丸襲撃事件で気絶したネギに対して祭先生が膝枕で解放をし
ていた。

(年頃の少年にあれは刺激が強すぎるのでは？)

こんな感じだろうか？この“祭ちゃん”と言うイレギュラーな存在が
原作を少しずつ壊しているような気がするんだが・・・どう
だろうか？

まあ、出来るだけ原作に関わらずに学生ライフを謳歌したい俺とし
ては

この娘とは関わりたくなかったんだが……無理でしたorz

きっかけは実家の親父から届いた一通の手紙。

- 息子へ

おう、光太郎。学園長から聞いたぜ、お前最近“麻帆良の喧嘩番長”と

呼ばれてるらしいな？随分強くなったみたいじゃねえか……。

そんなお前に課題を一つ、学園長の手伝いをしろ。多少荒く扱っても

良いとあの爺さんには言っているから、精々こき使われろや。

学園の裏仕事なんかをやったりや強くなれると思うぜ？

早く俺より強くなってみせる馬鹿息子。

やしろ てんりゅう
八城天龍より

結局親父の所為で夜の警備を手伝う事になったんだが、
よりにもよって今回組む事になった相手が……。

「祭です、よろしくねっ」

……どう見ても祭ちゃん先生です。有り難うございましたっ！！

とうとうイレギュラーと接触してしまったよ……はあ。（ ; ; ;

、
(
やっぱりこのまま物語に巻き込まれて行くのだろうか・・・不安だ。

その8とある転生者の溜息（後書き）

当然と言いますか、光太郎君はストーリーに介入していきます。
彼は美形ではありませんし、ナデポもニコポも持ってません・・・。

まあ、彼自身が望まないでしょうがハーレムは無理です。（笑）

また強キャラではありませんが、チートでは無いです。

一応もう一人の主人公なので今後ちよくちよく登場します。

光太郎君の紹介メモ その1

名前

八城 光太郎 (やしろ こうたろう) 性別 男

年齢 17歳 結構苦労人なのでもう少し年上に見える。

身長 178? まだまだ伸びそう 結構筋肉質

性格 少し口が悪いが面倒見は良い。

俗に言う転生者。修行馬鹿の親父に幼少の頃から扱われてきたので、結構強い。

無類のタフネスを誇り、親父のスパルタ指導もあって気の扱いに長けている。

人並み外れた膨大な気を武器に戦う戦士で前衛タイプ。ラカンと馬が合いそう。

前世でも修行漬けの人生だったため、今回はまったりスクールライフを楽しみにしていたが、巻き込まれ体質の所為で夢破れる事に……。

祭ちゃんと言う自分以外のイレギュラーな存在が原作を変え始めているのに
気づき、それに自分が巻き込まれる事で不測の事態が起きる事を懸念している。

その為出来るだけ彼女に関わるまいとしていたが、裏の警備員をする事になり

結果として彼女と接触してしまった。

学園では“麻帆良の喧嘩番長”と呼ばれ、古菲や四天王

クーフエイ

その他多数の力自慢達に勝負を挑まれ逃走もしくは撃退する毎日を送っている。

切実に彼女を募集しているが、恐らく“普通の娘”は無理だろう・・・。

彼の主な交友関係

古菲・・・勘弁してくれ（汗）

四天王・・・いい加減にしろ（怒）

その他多数・・・うっとうしい（怒×3）

その9 祭ちゃんの麻帆良学園ライフ（前書き）

今回は、祭ちゃんの1日の生活を紹介したいと思います。

大体こんな感じの毎日を麻帆良学園内で過ごしているのだと言う事をイメージして頂ければ幸いです。m(┐┌)m

・充電完了っ……。今日も頑張るぞ！

朝もきちんと食べるのが、祭ちゃんのモットーです。

（……。食べないと通勤途中で倒れます。）

ほっぺがほんのり赤くなり、目がきらきらと輝けばいつもの祭ちゃんが完成します。いわば準備OKです

食事を終えたら歯磨きと通勤準備を済ませます。

さあ、麻帆良学園へ出発ですっ！！

午前中の警備を終えての昼下がり、広場でネコ達とお昼寝タイム。そして、今日も茶々丸は微笑みながらデータを保存中。

・ほわほわ……。(*´`´、*)。

「……。今日も良いデータを保存できそうです。」 茶々丸

午後から夕方にかけて、警備を再び開始します。小柄な少女が胸を張り

ちよこちよこ動くその様は、教師の威厳は無いけれど、愛らしさだけは

一杯です。（本人は張り切って仕事をしていますが・・・）

・こらっっ、女の子をいじめる男の子はお仕置きですよっっっ！

！！

「「「ぎゃあああつつ、何か無茶苦茶痛えええつつつ！！！！」」」
ナンパ男×3

バシッ、バシッ、ズビシッ、ドカツ、スパコーンッ（ただいまお仕置き中です）

「「「ごめんなさいっ、ごめんなさいっ、ごめんなさいっ！！！！」」」
「」ナンパ男×3

どうやら、女子学生を無理矢理遊びに誘っていた男達（外部からの）を

NTS（何か叩かれると凄く痛い）バットでお仕置きしたようです。
彼らに変なトラウマが出来ない事を祈りましょう・・・アーメン。

夜になり、警備の前に夕食です。今日の相方はタカミチ先生・通称
たっちゃん。

二人で仲良く屋台で食事、どうやら今宵の食事は中華になりました。

・かに玉 マーボーっ エビ餃子っ （もふもふ）

「はははっ、喉に詰まらせないようにね・・・」 たっちゃん

・もちろんっ、しっかり味わって食べないとねっ

早速警備が始まりました。敵の召還した妖怪達をタカミチが撃退し、祭ちゃんが術者を探し出してから捕まえます。そして、尋問の開始です。

「ぎょえ〜っ！、そんな所をくすぐらんといて〜っつつ
！！！」

・侵入した目的を、早く答えた方が楽だよっ？（さわさわさわっ
）

「いやあああつつつ！！！」

闇夜に侵入者の悲鳴が木霊し、本日の警備は終了となりました。
尋問の様子を見ていた魔法先生達は、心で敵に合掌です。

家までタカミチに送ってもらい、うがい＋手洗いを済ませたら
パジャマに着替えてベッドにダイブ。明かりを消したら準備完了

・今日も頑張ったよ・・・お休み・・・。（u―u*）zzzz

祭ちゃん、今日も1日お疲れさまでした。それでは良い夢を・・・。

その9 祭ちゃんの麻帆良学園ライフ（後書き）

祭ちゃんが、学園内でどう言う行動を取っているかを
作者自身も一度把握しておきたかった為、今回はこのような
話を投稿しました。

・・・果たして、彼女はしばいた相手や侵入者達から
何と呼ばれているのでしょうか？非常に気になります。

その10、停電と言えば乾パンです (前書き)

祭ちゃんはクウネルさんと仲良しです。

そして、停電の日も彼女はマイペースです。

その10 停電と言えば乾パンです

朝 地底図書室 クウネルさんの住居

暖かい光に満ち溢れ、心地よい空気の流れる地底図書室。その最深部に

存在するクウネル邸のテラスにて、祭ちゃんとクウネルさんが朝食を摂っています。

クロワッサンに野菜スープ、サラダを食した後のデザートはフルーツを。

食後はハーブ・ティーを飲んでいるようです。

「ごちそうさま。クウネル、いつも有り難うね

「いえ、貴方の元気な笑顔を頂いてますので。そう言って貰えるだけで充分です」

昨日はクウネルの貸してくれた着ぐるみパジャマ

(タヌキver)のお陰で、ぐっすり眠る事が出来たよ

・・・でも何で私のサイズのパジャマがあったのかな？

・・・まあ良かったか、もふもふしていて可愛らしいから

(どうやら気に入った様子で、まだ着たままのようです。)

「フフ・・・気に入って頂けたようで何よりです。もしよろしければ差し上げますが？」

「え、貰って良いの？いつもありがとっ

「どういたしまして。その代わりと言っては何ですが、今回も写真を撮らせて頂けますか？」

「うん、別に構わないよ？」

「有り難うございます。（フッフ・またコレクションが増えました）」

クウネルさんのお気に入り写真集に新しく

“祭ちゃんのタヌキパジャマverが追加されました。”

朝食をご馳走になって、鞆にパジャマをしまってから地底図書室を
出発。

竜さんドラゴンに途中の階層まで送ってもらいました。話してみると、結構気さくで優しいんだよ？

「番竜さん、ありがとっ。また遊びに来るね」

「・・・グルルッ（ああ、いつでも訪ねて来な）」

下へと降りて行く彼（？）が見えなくなるまで手を振って、
後は地上を目指してウォーキング 罾トラップをヒョイヒョイ
避けつつも、途中でジュースを購入し、無事図書館から脱出です。

「新商品、“提督印・特製緑茶”かっ。（プスッ、チュー）
・・・うん、緑茶なのに何でこんなに甘いんだろう？」

図書館内には、他にも“特製野菜汁”や“青酢”と言った一風変わった

商品が売っています。是非皆さんもトライして下さい。

午後 麻帆良大学工学部 舵郎博士の研究室

「やあ、良く来たね祭君。ゲツちゃん、彼女にカフェオレを」

「イエス、マスター」

現在、知り合いの博士が勤務している研究室へ遊びに来ています

目の前にいる男性の名前は葉加瀬 はかせ 舵郎 たろう

『変な物ばかり発明しているけれど、天才ではある』って

以前ガンちゃん言っていたよ？それに、妹さんも天才なんだって。

「祭君、今日は夜の8時から12時まででは学園全体がメンテナンスで
停電になる日だから、ローソクや懐中電灯の準備は
しっかりしておくんだよ？」

- もちろん準備万端だよっつ。真っ暗な学園は何だかどきどきする
ね？

うっっ・・・早く停電にならないかな~~~~o(ハワハ)o

あ、そうだ。停電といったら乾パンが必要だよな？早速買いに行こ
う

夕方 麻帆良学園中等部 近所のコンビニ “MAGGY”

「ぐすつ、・・・友達が欲しいのに、誰も気づいてくれません。
やっぱり私は駄目な幽霊なんでしょうか？」

コンビニの前に佇む一人の少女。黒いセーラー服に銀色の髪、
紅い眼をしたことなく古風な感じのする美少女・彼女の名前は
“相坂さよ”。幽霊でありながら全く気づいてもらえないと言う
何ともかわいそうな少女である。

話し相手が欲しく、絶賛友達募集中の彼女が出会ったのは

「あれ、幽霊さん？こんな所でどうして泣いているの？」

コンビニの停電フェアに誘われ、
乾パンを買いにやって来た祭ちやんでした。

その10、停電と言えば乾パンです（後書き）

ネギ君がキティちゃんと激闘を繰り広げている間、
きつと祭ちゃん、幽霊少女を家に招いておしゃべりを
しているはず。祭ちゃんは少しずつ地味に
原作の流れを破壊していきます。

その11 仕事を終えての一杯は格別です (前書き)

今回は光太郎君のお話です。停電の日、先生達と警備をします。ちよっぴり戦闘描写がありますが、シリアスにはなりません。

後、さよちゃんには幸せになって欲しいですね・・・。

その11、仕事を終えての一杯は格別です

さて、祭ちゃんがさよちゃんと楽しくおしゃべりをしている頃・・・。

夜 麻帆良学園都市内 某所

「八城君、右だっ!!」 タカミチ先生

「了解っ、おいしょおおお!!」 (ガッ、バキッ、ズドンッ)

この物語のもう一人の主人公、八城光太郎やしろうたろうは他の警備

担当の人達と一緒に侵入者の撃退をしていました。

全身に気を纏ってひたすら妖怪を打撃技メインで片づけています。

「必殺、男気・ラリアット!!!」 (ズガンッ)

「ぐふおおお!!!」 鬼B

彼の戦闘スタイルは実にシンプルで、持ち前の並外れた気で強化した肉体で敵を殴り、蹴り、吹き飛ばしていく前衛タイプです。

(また、その他の特徴として変な名前の技を数多く持っています。)

視点：光太郎

こんばんは、転生者の光太郎だ。今日は年に二回行われる学園全体のメンテナンスの日と言う事で、魔法先生・生徒が大勢警備に出回っている。

ん、祭ちゃんは？今日は非番だから恐らく家でまったりしているはず。
誰かを招いて『今夜は乾パン・パーティだ』とか言ってると思うよ。

（大正解です。もともと相手は人ではなく幽霊ですが・・・。）

「次つ、断罪・レバーブローツッ!!」（ガボスッ）

「がつ、ぐごふおおお!!」 陰陽術師C

停電で一時的に結界が消えているとは言え、侵入者が多い。
タカミチ先生を始め、刀子先生にグラサン先生と言った一流の魔法先生達が奮戦しているけれど・・・。

「く、早く帰って娘の顔が見たいと言うのにつ!!」 ガンちゃん

「全く持って、同感だねっ!!」 式集院先生

「ああつ、彼と過ごす時間がっ!!」 刀子先生

「・・・（今夜は何を飲もうかな?）」 グラサン先生

何だか、先生方の性格が原作と比べて若干砕けているような気がするのよ。
気のせいではないかな？・・・まあ、刀子先生は変わっていないか。多分。

（バシャンッ、パパパッ）

ふう、ようやく停電の復旧が完了したか……。これでやっと帰れるよ。

あ、ガンドル先生、式集院先生、刀子先生達の顔が綻んでいる。
グラサン先生は……。何を考えているのか分かんないや。（汗）

（サングラス＋無表情の為分かり難いですが、今夜飲む酒と肴について

思いを馳せています。内心はウキウキ状態です。）

日付が変わってしばらくした頃、光太郎君は小腹が空いたので行きつけの

店へとやって来ました。店の名前は“Lovely Starfish”常連客達からは

“ラヴスタ”と呼ばれている場所です。

「やあ、いらっしやい光太郎君」

「どうも、マスター。何か夜食を作ってもらえませんか？」

「オーケー、少しだけ待ってね。」

今、光太郎君と話をしていたのがこの店の主“たしろみつはる田代光晴”さん。

夜だけ開くこの店を一人で切り盛りしています。（彼も魔法関係者です。）

今夜の客は、光太郎君、真名ちゃん、刹那ちゃんの3人です。

光太郎君がマスターの運んできたサンドイッチとミネストローネを食べ終えて、
食後にコーヒーを飲んでいると、マスターが3人に尋ねてきました。

「知り合いから貰った飲み物を、一緒に試飲してみないかい？」

「どう言った物なのですか？」 刹那

「うん。成分は普通の水らしいんだけど、飲むとお酒を飲んだ時と同じ様な状態になるそうだよ？」

「良いのかい？ 私達が飲んでも」 真名

「お酒では無いから、全く問題ないよ」

「仕事の無事終了出来た事への祝杯と言う事で良いんじゃないか？」

光太郎

特に反対意見も出なかった事もあり、みんなで飲んでみる事になったのでした。

視点：光太郎

マスターに勧められて飲んでみたが、不思議な水だ……。体が温まり、ほろ酔い気分になってきた……。マスターと龍宮は平気そうだが、桜咲の状態がなあ……。

「うつつ、私だって……。本当はお嬢様と一杯遊びたいんですっ。だけどっ、だけど

私はっ、私は……。ぐすっ、ひつく……。えぐう」――

まさか泣き上戸とは……。おい龍宮、携帯で撮るのは止める。

おまけ その頃の祭ちゃん

「そうかあ……。60年も幽霊をやっているんだ。よし、知り合いの

シャーマンさんに頼んで蘇生を!」

「あゝ、多分私の元の体はもう無いと思うのですが?死んでしまっ
つてから

随分と経ちますし……」

「……あう」(p……*q)

その11、仕事を終えての一杯は格別です（後書き）

みんなで飲んだのは川 水です。せっちゃん以外は酔わなかった模様。

後日、録画した内容を見た彼女は確実に怒りますね・・・。

それを分かってやる真名さんは、ちょっぴりいじめっ子です。

その12 さよちゃん起動です (前書き)

9日ぶりの投稿です。祭ちゃんが、さよちゃんに新しい体をプレゼントするお話になります。

なお、今回の話を読む際に「3分クッキング」のテーマを聴きながら読んで頂ければ幸いです。

その12 さよちゃん起動です

早朝 麻帆良学園都市 郊外 祭ちゃんの部屋

チュチュチュンチュンチュン、チュチュチュンチュン

家の外で雀達が軽やかに合唱をしている頃・・・。

「祭先生、祭先生っつ。起きて下さ〜いっ」

直接手で触れる事が出来ない為（幽霊なので）、近くにあつたぬいぐるみの

手を動かして祭ちゃんの体を揺すっています。さよちゃん、以外に器用ですね。

「・・・にゅ〜ん、後3・・・いや5分〜・・・。。。」（u
u*）zzzz

「はうっつ、時間を増やさないで下さ〜いっ!-!」

ようやく起きた祭ちゃん。シャワーを浴びて、着替えを済ませてから朝ご飯の準備を完了しました。けれども、まだまだ眠そうです。

「もきゅり……。それで、こんな早くにどしたの？」
「」

フレンチトーストを食べながら、祭ちゃんは尋ねます。

「あ、すみません。昨日、私に新しい体をプレゼントして頂けると言われて……。あまりにも嬉しかったものですから」

視点：祭ちゃん

「あ、すみません。昨日、私に新しい体をプレゼントして頂けると言われて……。あまりにも嬉しかったものですから」

あ、そうだった。さよちゃんのこの言葉を聞いて、一気に目が覚めたよ。

さよちゃんに新しい体を用意してあげるって約束したんだっけ？

・よゝしっ！！さよちゃん、今から地下室に降りるよゝっ！！

「は、はいっ」

以前、れんきんじゅつしの友達から貰った本が役に立ちそうだね
ふっふっふ。さよちゃんの為にも頑張るぞゝゝっ！！！！

祭ちゃんに連れられて、さちゃんが地下室にやって来ました。
地下なのに部屋全体は明るく、何故かは分かりませんが、
不思議と気分が落ち着く空間です……。

それは良い事なのですが、何故か彼女達はエプロン姿です。
フリルの付いたエプロンにミトンを装備していて、何処か
愛らしさを感じさせます……。

（霊体のさちゃんがどうやってエプロン姿になったのかが
謎ですが……。気にしてもしょうがないのでスルーです。）

「祭と」

「さ、さよのっ」

「「3分間・メイキング」ホムンクルス編」」（パチパチパチ
〜）

・・・おっと、作業が始まるようですので解説を再開します。
今回ご紹介するのは、祭ちゃん流・ホムンクルスの作り方です。

用意する材料は以下の物になります。

- ・ほむんくるすばうだ〜 x 1体分
- ・まんどらごら（？） x 少々
- ・けんじゃのいし（？） x 10g
- ・“NSHW”（何か凄い聖水） x 200cc

これはあくまで祭ちゃん流ですので、決して真似はしないで下さい。

材料集めor作業で生じたアクシデントにつきまして、当方は一切の責任を負いません。m(――)m

上記の材料が全て準備出来たら、早速メイキング開始です。

まず始めに、“まんどらごら”をすり鉢で綺麗に磨り潰します。続いて、

ボールに“ほむんくるすぱうだ”を入れ、そこに“NSHW”を注ぎます。そして、良くかき混ぜます。

全体的に良く溶けましたら、先程磨り潰した“まんどらごら”を加えて

さらにかき混ぜます。生地にしがでてきたら一度冷蔵庫で寝かせます。

1時間程寝かしたら、“ほむんくるすめいか”の型に綺麗に流し込み

“ほむんくるす”の中央部分(ヒトの心臓辺り)に“けんじゃのいし(?)”

を加えて、準備完了です。

後は“ほむんくるすめいか”を起動させ、出来上がるのを待ちましよう。

「上手く出来上がると良いね」 祭ちゃん

「そうですねっ。楽しみです」 さよちゃん

視点：さよ

こんにちは、相坂さよです。何と60年目にして幽霊を卒業する事が出来ました。祭先生っ、凄いです!!!!

私の新しい体は“ほむんくるす”と呼ばれる物らしいのですが、以前の自分と瓜二つの姿をしているので、始めて鏡で見た時はびっくりしました。

どうして、そっくりな物を作れるのかとお尋ねしたのですが・・。

「生地を練る際に完成した姿を思い描きながら練っているから」

と言う答えが返ってきました・・ちょっぴり不思議な方ですね。

何は兎も角、祭先生、本当に有り難うございます。

夕方 麻帆良学園中等部 学園長室

(ココン、コンッ)

「ぬらりん、ちょっと会わせたい娘がいるんだけれど？」

そう言つて部屋に入つて来たのは、わしにとって気の許せる友の一人祭君じゃつた。一体誰かと尋ねようとした所で、彼女の後に続いてやつて来た少女の姿を見て思わず眼を見開いてしまったわい。

銀色の長い髪に紅い瞳、整つた顔立ちに、どこか臆病な小動物を思わせる表情。

60年間、救いたくても救いきれなかつた少女が目の前におつたのじゃ。

「・・・相坂、さよ君じゃの？」

「はい、そうですよ。学園長先生」

年甲斐もなく泣いてしまつたわしは、決して悪くないと思うぞい・・・うん。

あ、すまんがもう少しだけ泣かしてくれんかのう？・・・ぐすり。

その12 さよちゃん起動です（後書き）

今回登場した様々なアイテムにつきましては、
後に投稿する設定集の中で説明出来れば良いなど
考えていたりします・・・。

少々力オスな内容になってしまいましたが、
さよちゃんの幸福を願って今回の作品を作りました。

薄幸“元”地味幽霊少女に幸あれです。

その13 休日は楽しく過ごしましょう (前書き)

修学旅行前の休日、ネギ君が木乃香ちゃんとデートをしている裏側では、刹那ちゃんがスニーキングをしていました。

そして、それに付き合わされる光太郎君・・・。

それとは別の場所で買い物を楽しんでいる

祭ちゃん&さよちゃんの2人組・・・。

今回は、そんなお話です。

その13 休日は楽しく過ごしましょう

正午 原宿 ショッピング街

「ふふふ・・・ネギ君？」 木乃香

「や、止めてください木乃香さんっ。僕、こんな服着れませんっ！
！」 ネギ

ネギ君は木乃香ちゃんと一緒に楽しい一時(?)を過ごしている頃

視点：八城光太郎

何故だろう・・・。何故・・・こうなったのだろうか？（汗）

「ひえんはい、ひいほへふはい。ふおうふあはをひいうひはっへ
ひはいはふ」

（訳：先輩、急いでください。お嬢様を見失ってしまいます）

何故俺は、原宿まで来て桜咲と一緒にスニークキングをやっているの

か？

今日は休日だから、久しぶりにまったりと過ごそうと思っていたのに・・・。

（時をさかのぼる事数時間前）

朝 麻帆良学園都市 郊外 銭湯 “漢の背中” 玄関

早朝から始めた修練を終えて、近所の銭湯で汗を流した後。
コーヒー牛乳片手に店を出てみると・・・。

サイドポニーにスパッツ装備の制服姿、大きな刀剣袋を背負った小柄な

少女 - 桜咲刹那さくらさきせつなが、何やら怪しい動きをしていた。

「お嬢様・・・こんなに朝早くから、ネギ先生と一体何処へ・・・？」

そう呟きながらネギ&木乃香をこっそり尾行する少女剣士。端から見れば

シニール以外の何ものでもないその光景を見た俺が取った行動は、

「・・・おい、桜咲。朝っぱらから何をしているんだ？」

「ひゃうっ！！せ、せせせせ先輩っ！？」

「ストップ。あんまり騒ぐな、二人に気づかれるぞ」

背後から肩胛骨けんじゅうこつの辺り突きながら話しかける事だった。

以上のような事があり、現在に至るわけであるが・・・。

「ひえんはい、ひいほへふはい。ふおうふあはをひいうひはっへひはいはふ」

（訳：先輩、急いでください。お嬢様を見失ってしまいます）

桜咲・・・。たい焼きを頬張りながら尾行するのはどうかと思うぞ？
まあ、可愛いから良いかな・・・？ ん？？？

今のは微笑ましく感じたのであって、決して萌を感じたのでは無いはず・・・。

俺は決して年下専門ではないし、ストライクゾーンも低めでは無いんだ！！！！

視点：祭ちゃん

今日は、さよちゃんと一緒に原宿まで買い物に來ています
二人で生活をするようになったから、色々と必要になるものが

出てきたんだよね。洋服や下着もいっぱい買わないとね？

「あの～。こんなにたくさん服を買って貰って良かったんですか？」

・もちろんだよ～。さよちゃんは可愛いから、お洒落にも気を使わないと

「そ、そのつ。結構お金もかったのでは・・・？」

・いいんだよ　ぬらりんが復学祝いにつて事で多めにお金を渡してくれたし

「うつつ。私なんかのために・・・ありがとうございます」<|>。

・ほらつ。泣かないの～。良い子良い子　（なでなで）

う～ん、こんなに可愛い娘なのに誰も気づいてあげられ無かったなんて・・・。

よしっ！！さよちゃんの為に私が出来る事を精一杯やっていくぞっ！！！！

視点：相坂さよ

出会ってまだ数日しか経っていないのに、祭先生は私に色々な事を

下さっています。温かい体が戻って来ただけでも嬉しいのに、こんなに

たくさんの服までも買って頂いて・・・。

嬉しさで胸がいっぱいになって、涙が出て来ました。（＜―＞。

「ほらっ。泣かないのっ。良い子良い子」 （なでなで）

そう言って私の頭をなでる先生の手は、とても柔らかくて、体が芯から温まるような優しさが伝わって来ました・・・。

人の温もりを感じる事が再び出来るようになったこのご恩を、いつかきつと返させて下さい。私、頑張りますっ。 q（^ - ^ q）

視点：八城光太郎

結局、桜咲に付き合って一日中ネギ&木乃香を尾行していたのだけれど、

今回のデートイベントに関しては、原作とあまり変化は無かったと思う。

（木乃香嬢がほくほく顔だったのと、若干手荷物が原作より多めだった

のは、おそらくネギの女装グッズだろう・・・南無阿弥陀仏。

ただ、木乃香嬢がネギに膝枕をした時は -

「ネギ先生、何てうらやましい・・・いや、私がお嬢様に膝枕を・・・」

と、頬を赤らめながらぶつぶつ言っていた。不覚にもその様子を見て桜咲を可愛いと思ってしまった俺は、やはり（21）の気があるのだろうか？

前世で生きた年数と会わせると、40を超えるのであまり否定できそうに

無いのが恐ろしい・・・。

「アスナさん、誕生日おめでとございます」　ネギ

ネギと木乃香嬢が明日葉に誕生日プレゼントを渡し、その他（チア3人+

ショタコン委員長と一緒に麻帆良へ帰って行くの見届けて、今日の原作イベントが全て終わった事を実感する。

そろそろ自分達も帰ろうと思い、桜咲に声をかけようとしたところで -

「あれ？光太郎君に刹那ちゃん、もしかしてデート？」

背後から祭ちゃんに声をかけられた。考え事していたからと言っ

て、

全く気づかなかった事に不覚を感じながら振り返ると・・・

私服姿のほわほわ少女・祭ちゃんと、実体のある地味幽霊(?)
少女がそこにいた。・・・あれ、足がある？何故に？

「一体どうしたの？そんな幽霊でも見た顔をして？」

・・・いや、そもそも相坂さよは幽霊少女では無かったのか？

おまけ

その頃クウネルさんは、

「ふふふ、ついに“もふもふランド”のチケットを手に入れました・
・・・。

これで祭さんをデートに誘う事が出来ます。ふふふつ。可愛い物
好きな

彼女の事です、きっと喜んで了承してくれるでしょう」

祭ちゃんと遊びに行く計画を立てていました。

その13 〽休日は楽しく過ごしましょう (後書き)

幽霊では無くなったさよちゃんとお会った光太郎君。
原作とは違った流れに戸惑う彼を待っているのは、
やはり面倒事なのでしょうか・・・？

その14、修学旅行前夜　ちょっとした二人の会話です（前書き）

更新が遅くなって申し訳ありません。前回からの続きで、今回の内容は光太郎君と刹那ちゃんのやりとりです。

京都編の前にどうしても書いておきたかったので、投稿した次第です。

30000pv、5000ユニークを突破しました。

この小説を日頃読んで下さる皆様に感謝して、これからも頑張って続けていきます。m（＿）＿m

その14 修学旅行前夜　ちょっとした二人の会話です

夜　麻帆良学園都市　学園都市へと続く道

夜の学園都市、学生寮へと続く道を歩く二つの影があります。

我らが剣客純情少女・刹那ちゃんと、この物語の男主人公・光太郎君です。

視点：桜咲刹那

あの後、私と八城先輩は何故か祭先生の自宅に招かれ、夕飯をご馳走に

なりました。多少、私達も夕飯作りの手伝いをしましたが、先生・

料理が出来たんですね・・・以外です。

「　　」　　祭ちゃん

某カンフーアクション映画の日本版主題歌を歌いながら、餃子、炒飯、

玉子スープと次々に料理を仕上げて行く姿を見て、普段の暇さえあれば

“昼寝”、“食事”もしくは“ネコとの戯れ”を行っている先生とのギャップを感じました。

後、餃子の餡を皮に包むのを一番上手に行っていたのが八城先輩だ

ったので、
思わず信じられない物を見るような眼で見てしまいました。その際に、

「・・・俺はこう見えても結構器用な所もあるんだぞ。決して古菲みたいに

格闘バカでは無いんだからな？」

少し拗ねた顔をしている先輩の様子が年相応に見えて思わず微笑んでしまいました。

普段一緒に仕事をしている時等は眉間にしわを寄せて任務をこなしている事が

多いため、こういった表情を見る事が出来たのは幸いかもしれませんね・・・。

さて、明日からは修学旅行です。荷物の準備を終えたら早く眠る事にしましょう。

木乃香お嬢様の平和は私が守って見せます。ネギ先生だけでは不安ですからね。

視点：八城光太郎

何故か祭先生の自宅に招かれた俺と桜咲は、夕飯をご馳走になったのであった。

俺達も多少手伝いはしたのだけれど、先生・・・料理できたのか・・・以外だな。

「　　　　　」 祭ちゃん

何処かで聴いた来た事のある歌を口ずさみながら、次々と料理を完成させていく。

うん、フリルのついたエプロン姿が実に愛らしい・・・いや、実際に手際が良い。

普段は、“もふもふ”と何かを食べているか、“ふによくん”と昼寝をしているかのどちらかしか見かける事が無い為、激しいギャップを感じてしまった。

後、餃子の餡を皮に包んでいると、桜咲が信じられない物を見るような眼で

此方を見ていた。その反応が少しだけ心外に感じたので、

「・・・俺はこう見えても結構器用な所もあるんだぞ。決して古菲みたいに

格闘バカでは無いんだからな？」

と言ったら、しばらくの間きょとんとしていたが、すぐに“くすり”と微笑んだ。

整った顔立ちの美少女が、普段見せる事の無い笑顔を見せた・・・だと!?

うむ、実に良い笑顔だ。思わずどきりとしてしまった程の良い笑顔だった。

明日からの修学旅行、恐らく色々なハプニングが起こり大変だとは思うが、

彼女も原作メインキャラの一人、無事に帰って来られるはずだ・・・。

とは言え、不安に思ってしまうのはそれだけ、今自分の隣を歩いている少女の

事が気になっているからなのだろうか？・・・これはやはり、恋心なのか？

二人が歩く事しばし、女子学生寮が見えてきました。どうやらここで別れるようです。

「あゝ。その、何だ・・・明日からの修学旅行、無理をし過ぎるなよ？多少は良いとして」

頬をかき、そつぽを向きながらそんな台詞を言った光太郎君を見て、

「（くすつ）はい。ですが、京都では何があるか分かりませんから・・・多少の無理はさせて頂きますよ？」

刹那ちゃんは、微笑みながらそう言葉を返します。

「（む、やはり可愛いな）・・・そうだな。まあ、無事に帰って来いよ？」

そう言つて、片手を挙げながら男子寮へと歩いていく光太郎君。暗がりではつきり見えませんが、彼の顔は紅く染まっていたようです。以外と・・・純情ですね？

「ええ、それでは失礼します。先輩、お疲れさまでした」

「ああ・・・。桜咲もお疲れさん」

光太郎君が後を振り返ることなく男子寮へ向かつて行くのを見届けて、刹那ちゃんも女子寮の中へと入って行きました。

その14、修学旅行前夜　ちょっとした二人の会話です（後書き）

次回から、京都編に突入です。

祭ちゃんの活躍に期待しましょう。

きっと、シリアスな要素は少ないですが・・・。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1209k/>

マイペースな祭ちゃん

2010年10月9日07時55分発行